



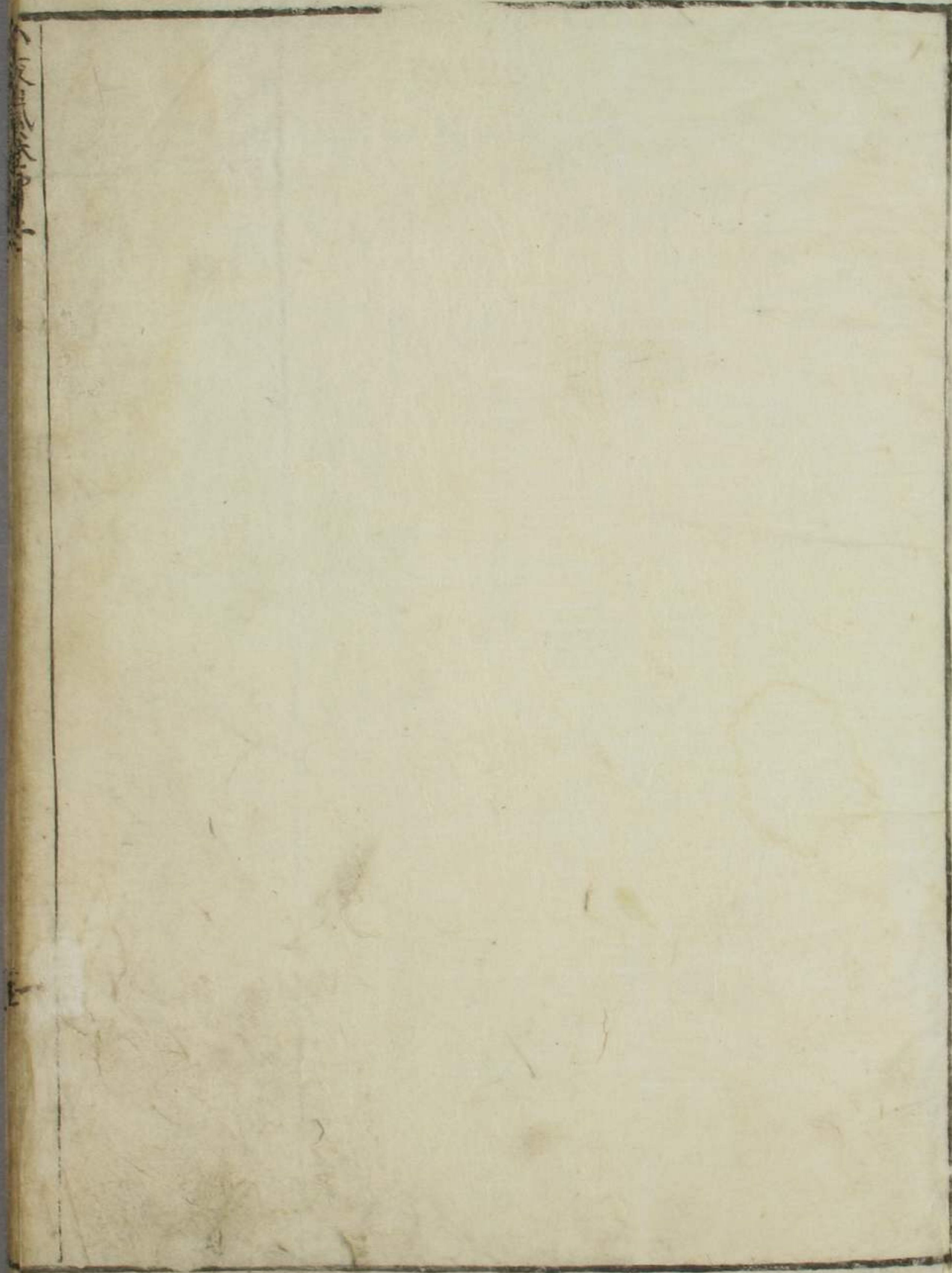
八弦
小長卷物譜

門
乃
出
三
中
溪
緣山

13
1626
1



273



善くしつらむ。教を二子入百廻の御年忌を涅槃
八日も遊々れし。御遊善の事は度々大善根は
有りて。御書とあるとて。佛の
御心よ叶きとす。つるべごごも。そのくいなは
のあひを。法王勅宣承。すまは。先れ善根
し。あつて。あせあふ。教も。と。和合相應の志ん
よ。け。中の。法。と。内。法。事。さ。あ。く。た。る。處。く。い。中。よ。
先。跡。山。乃。數。劫。在。界。中。に。い。せ。か。き。心。當。く。い。
や。河。海。の。鱗。と。あ。ざ。り。す。事。浦。之。河。迄。禁。商。高。
礼。と。て。ま。ら。る。べ。う。も。い。や。ん。と。い。う。じ。く。さ。ゆ。く。後。
善。と。す。あ。よ。又。道。徳。悔。王。の。元。來。慈。悲。少。く。情。の

ま。し。ける。が。さ。と。と。つ。ぐ。り。と。せ。あ。あ。そ。れ。が。く。ね。い。え。
非常の大救。増。の。大。善。根。よ。い。あ。ま。べ。く。と。す。あ。
か。く。い。ひ。多。劫。比。獄。よ。悔。を。あ。つ。く。長。劫。よ。火。火。れ。
責。と。う。と。い。ひ。罪。人。を。汝。と。く。い。わ。さ。ま。な。く。と。あ。ま。せ。
られ。く。已。が。悔。し。罪。業。と。ハ。ア。ま。ぐ。る。目。を。高。め。れ。
ど。の。あ。つ。れ。い。う。と。と。幾。回。に。か。り。と。て。目。救。と。く。
ふ。り。御。心。を。免。ら。ん。是。か。ど。の。御。善。根。ハ。四。座。を。ら。る。
し。ふ。う。く。御。心。が。く。り。す。事。ハ。人。と。大。王。の。い。み。も。
と。あ。は。り。ま。し。つ。輪。王。の。ご。ん。せ。く。と。も。不。祥。物。な。り。
九。と。さ。の。お。の。り。の。劫。定。り。ま。し。つ。法。王。と。い。ふ。言。さ。
る。べ。く。一。回。ハ。四。十。一。回。大。王。の。ご。ん。の。い。け。の。い。

大赦の日ぬらうづらうと定むるに候けれ。檢
王の御してやうとたおれはの法赦の毒代り事
なれど神のまよふ孫づらうと。二月朔日より同晦日
までさうはゆるもやう後とせよとて大官ま
は元來の邪見よししてさうと船ごまかれハ
文道もた達せられど。前生のけく心罪科一
をも跡さへ載の帳よ半けう筆おこし。是より
あ。赦罪舎とあづらり。秤量舎よとて業れ秤
と。眼あよとさうと。前生の罪障とてんづらうのま
かりし。さうとあやのせれとあまらうよ。慈悲
のひ。慈悲ハ三生れ敵とさうとけぬれ。衆

とあ。三回計とてはる。慈てあハ檢王とて
まとれど。慈悲とて。科と罪人とて。あ。宮
免せられ。正科かれ。事のこまひ。さわれとあ
もらう。この。比獄のこまひ。か合び。いと。愛そ
か。げよ。さうと。ま。と。大。王。と。さうと。わら。り。満。座。の
前中。興。り。笑。ひ。子。万。が。心。ひ。身。なり。も。法。と。う
道。わ。さ。は。真。實。俱。生。ハ。と。ん。大。ま。わ。が。こ。あ。ん。こ
畜。と。く。ひ。わ。さ。り。輪。王。ち。つ。ま。さ。り。さ。い。ぬ。ん。
を。八。帝。の。宮。備。あ。ら。が。それ。官。王。よ。い。さ。う
命。こ。ま。あ。わ。ら。ぶ。一。命。と。う。あ。ま。さ。ら。た。あ。れ
是。と。御。年。忌。大。善。根。れ。陰。を。な。れ。づ。あ。り

ハ

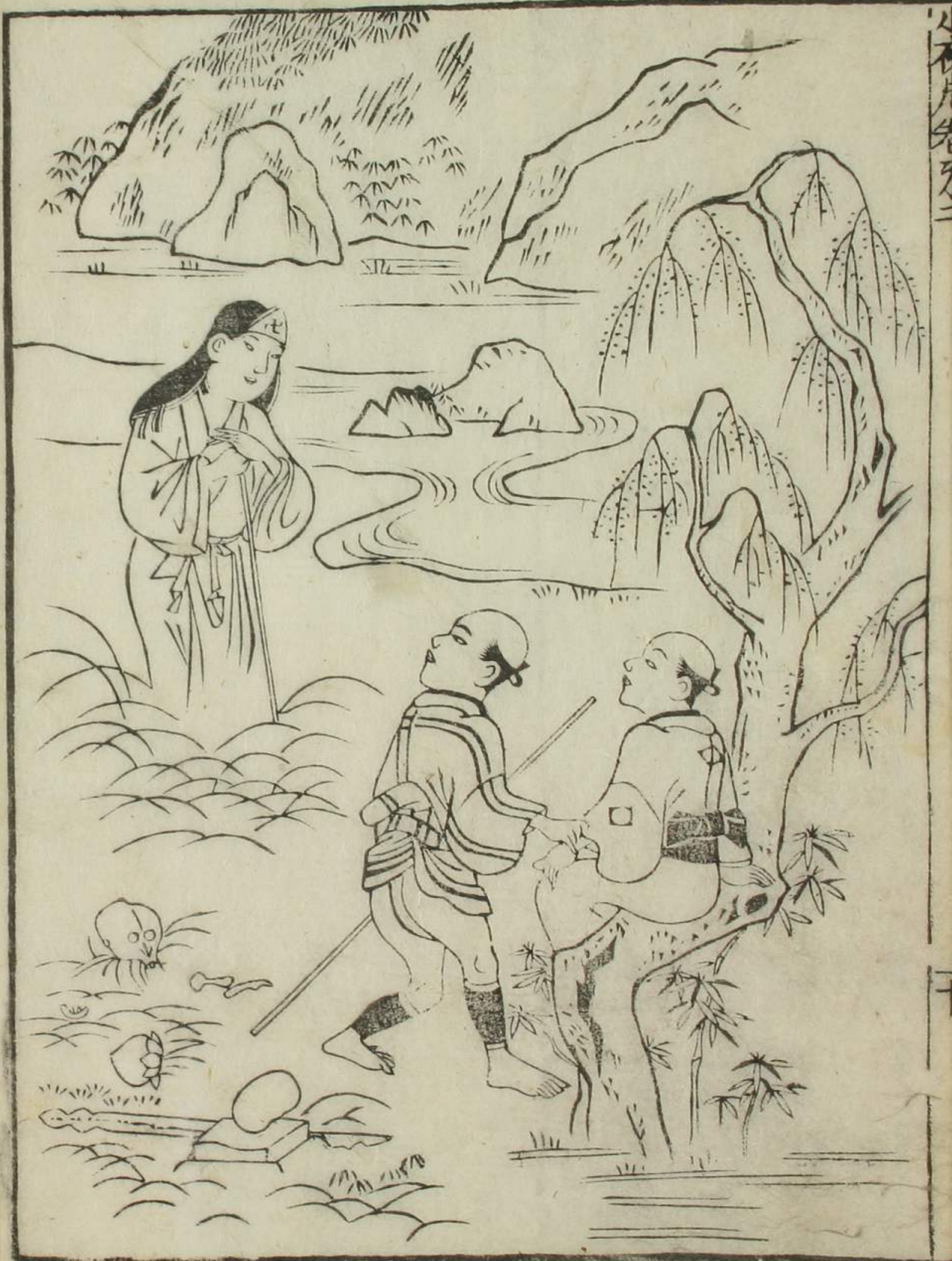
四



小夜嵐卷之二

小夜嵐卷之三
麻呂尼女といふもふ二人乃子つら。見て花天
こらん付。才を宝蓋しくらん付。切少れ時父母よ別
人とすの。才命と續切られ心よも。父母れよ白
く石塔と級て。毛と捧信書とかんかくして
漸く十三年よつ心。志するに常人も十三年
忌とて仏事と受かりあり。彼足才も志と
めがらうとていづも。後か。そのころ心よ。昔れ
とていづるも。足才同心よして石塔と級て祀
を捧之。後とつて。父母の菩提といのふ。かくとく
して七日経布よ。その玉乃玉杯戲のよ。行
事もして。心がらん。彼に。心よ。あて。心よ。愛

所あり。惟あつらんもよ。花天を花と教彼石塔と
礼とすまふ。又佛菩薩支那と並く。二童子と照
影存り。圍繞しあり。も時帝王彼二人乃童子
り。とて。事れ。とて。いづ。福あふよ。とて。心
の。とて。中時帝王。いづ。孝の。聖志と感。即れ。と
考。車よ。の。也。還。御。し。而。見。れ。花。天。よ。位。を。讓。り
才の。宝。蓋。し。級。と。つ。る。心。大。臣。よ。な。り。終。つ。り。
二人の。子。ご。も。自。立。の。位。よ。の。が。つ。し。現。生。の。栄。花。よ
誇。ま。す。妙。と。あ。つ。る。石。塔。と。か。ん。功。徳。よ。う。い。は。れ。人
か。り。又。仏。喜。薩。の。定。と。も。わ。ら。照。り。も。う。二。觀
乃。は。脱。教。る。と。い。へ。自。身。を。成。仏。教。あ。り。が。善



随見随闻皆惨慄

此秋獨作秋

或付悪相後唐をこまひ。後山を準和尙の夏中

よ因るきむひ。多々極くは物極までありてを準

和尙是之。世人あしくらるごと。くらひぬまへど夏

悪相

唐衣おりてきここの神ぞこけ

袖よちりころ梅あきぐしれ

雲華わあら。一句とさびりあひ。瑞朝あるれ

と後唐の天社とす。そけり。管絃は鏡前

後木ちあき御遊去あきと。洛陽小野は宮林

天波大自在天神に祝もの。そは後云の罪あき

よのあぢた乃時平公ハ比獄よあづき事と云ふ落よ
落よ内くまきと云日苑上人比獄あく母と云
まづ心者御製

つたうくく奈落乃座よ入ぬきハ

せつりもあぢごとくさるるり

上人帝と云きくくまきと云よ事と云十善帝
王のいがさる罪科のぐれぬんぬん劣劣
くあつくと云黄泉中より旅と強く罪人
うつがいわつと云坂ハ才一奈廣王ハ
庭中よ入りしれどい前乃玉机よ金銀の帳と
己のらげ罪科の軽重とあぢく心奪魂鬼奪精

鬼傳魄鬼なるんども異種ノ鬼たうけらるる男女
乃あつと云わきんば奇責と云うた中よ馬籠又録よ
高き矢ぬる罪人と云鎖の鬼よけらるる合く銀の
あつと云のぐいひん乃頂と云長連貫浪はと云
さつと云乃乃朝夕あり。白霧峯と云はつと云
く星乃灯電乃火成らる。響乃響乃響ひら
まて。骨と云心と云心叫喚のぢハ僅ハ蚊
蛇のこくく廣王亡人よ昔く回長ぬれと云
うた吊つと云願よ曰
法去過死ハ
山踏無衣食
漸近圖魔王
飢寒若何患

才二初江王八葦頭河の曲初江の邊は官廳を建て
美下大石而をきげ川からと亡人後集心と思ふ
奈河津と名付ふあ津は深津後橋津と
三津川又三津川とてさへ
一りのりあぐし湯とて水遠深ふ巨海
むくく廣く淮は湧りあり水清く
野山に遊ばせし柳て柳は柳虎とあけば風は波と
ふふ天てわくひ蒼地吟とくしど又雲黒烟とけり
いふ地望緯東西へもあつてあつて後橋瀬は
鉄の爲一條鉄の如く懸たり身もよ同まひ物じみ
明流のいかにし大樹あり衣領樹と名付その

大樹の女よ二の鬼行り集衣婆懸衣翁とつあり
婆鬼くれと見るに吳鏡の眼は血とそら髪はか
ろよ表衣代いむぐれ柳の爪と折るる亡人の
ささふ惟あわし一賊のうむかかや古ゆくまを
奪ふにハ懸衣翁くれむら衣と大樹の枝よあけ
くけ縮布ぬよぬ色目ふくくはして烟くはいさぬ心
れむくくおきくは湯まきく邪くやくあく世
わく人の女性とらるる黄金用とけく
はく袖く後種錦繡乃教とあわのり膚の衣下重
うけ織物唐かりやさくうく教そくは津と梅津
紅梅柳又高あく玉れ八子代深枕又巻くは景の

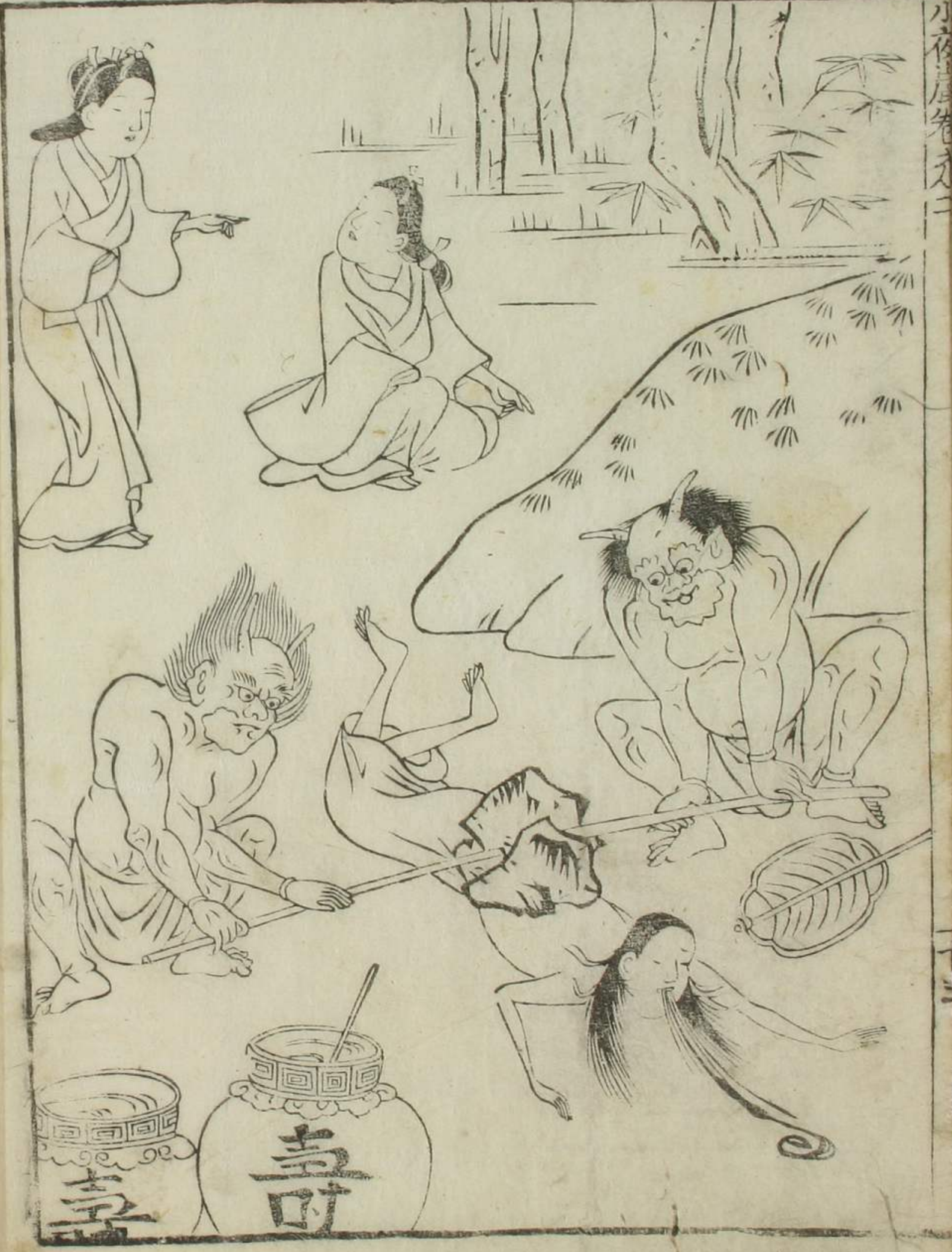
ゆりりささげあふる。ござりけりて申ぐり秋と
 又か何菊りみぢ。栝梗榎柳くわえいぶしやなぎもる。後冬とあせそ
 君下。後冬ごふゆ深ふかのあせそ人ひとも。と又また仕しのしらさ
 太たららさ。小こうらた。かまけ草くさ下したひも。ままい
 袴はかま又また糸いと乃の縫ぬいた。おのふらと。わのはななにに小
 袖そで袷あはせ一重いちじゆうす。羅らなんどらひひくくななええととくく
 もとらと。別わかち。あしあしのの蘭らん芝しばと。ああくくととあ
 簾すだのの遊あそ風かぜうらうら青あおどりどりああせせここれれかかななううととささも
 が。去いぬぬ秋あきのの夏なつととあありり花はな深ふか衣ぎ乃のきき好このううららしし
 さらのの下したととささししかかそののままいいぬぬたたととくく白しろ帷かたびらだ
 一いついつききくく白しろ麻あしな布ぬいののひひととははいいままららくく接ぎししとと

あく白しろたたええわわええんんよよずずとと袋ふくろももれれももああくくええららくくららけけ
 んんくくくくららけけくく伏ふせせいいちち申まうおおくく。今いまはは申まうささくくとと
 くくととままれれををいいちちららててししららままししたたいいええんんくくれれくく。同どう
 色いろらられれ酒さけととららゆゆ。惟ただひとひとととかかりり人ひとたた者ものににままと
 ととれれををねねぬぬままよよ。そそとと人ひとかかええ葬むすぶ氏し乃のううととふふ。死し
 ららしし。今いまららりりねねななああ。後ご由よしととののくく。ままととええんんここももひひ
 へへここままくく。ええんんかかりりののややりりててももららととららとと。ここももひひ。飛と人ひと
 なくなく。葬むすぶ氏し乃の初はつ悪あく不ふ見み蛇へびがが常とことと打うちちとと。洞ほらををくく
 初はつ江え王わう乃のいいちちりりかかくく。ままふふだだれれちち邪よこしま婦めかけ妾めかけ乃の死し
 孔くわ明めい志し乃のままふふまましし。亡な人ひと殺ころすす。庭にわととよよ。川がはああくくとといいくく
 くくとと陰かげををああららすす。年としれれはは二十にじゅう中ちゆうかか何なに女むすめががららののりり

白かりやて悪髪かろくうごうんごうかめあ
らふふうらめしうらめし女とめうまふあ
ぢらもどめく化の男とちうい毒の恨とぬく
坊の心そのぞま時の身は糸一酒意よつ成さ
し我も解人とて砕せぬらつまらあふ飲酒成
成づりま癖は催さしああかた恨とつら
男もうううらめしうらめしうらめしけあし
比獄八雲の産まはせをせしゆべさみどいもせ又
或時の熊野愛宕白の権現の平王かんごらう
しす神六根うはりうらめしうらめしうらめし

延後尋文やかやううらめしうらめしうらめし
きもはくは邪媚飲酒安寝彼戒罪汝のつら
りのからうらめしうらめしうらめしうらめし
れ女とらえんあは情事
才ハニ女とんあは情事

半匹る頭彼女成うけなる黒繩と針鐵の棒は
うけさうらめしうらめしうらめしうらめし
あまうらめし鬼絶死とあや又呼まうらめし
くさいかじと或女がうらめしうらめしうらめし
しゆりやうらめしうらめしうらめしうらめし
子ハあまの乃女房うらめしうらめしうらめし



小夜屋卷之二

くらう。少なりう。何の女れ若痛とぬけり度
 し。ふとさうこそせぬ人なれども。かろりたれぬ
 らの。あ。の前よ。りりして。は。悪。女。と。じ。ま。れ。邪。婦
 の。罪。清。く。さ。く。の。罪。清。ま。く。さ。れ。と。い。ふ。お。く。り。よ
 女。の。つ。て。お。は。い。わ。ん。と。い。ふ。お。の。女。の。お。つ。た。と。き。あ。り。
 お。う。ら。ん。乃。の。あ。り。う。か。ら。ぬ。た。ち。あ。り。し。は。ま。れ。た
 男。れ。方。も。あ。り。た。く。い。く。せ。お。う。ら。ん。百。夜。の。う。ら。ん。男
 と。い。て。命。と。う。け。年。月。物。も。ご。と。わ。り。た。り。て。嫁
 と。お。し。や。す。と。も。め。お。り。た。も。と。あ。り。の。う。ら。ん。か。ん。折。云
 と。文。よ。書。く。り。の。の。果。お。て。ぬ。命。の。か。ん。に。か。ん
 よ。う。わ。り。た。り。ぬ。さ。う。く。い。や。ん。又。に。お。う。ら。ん。し。い。ご。う

こ。い。や。ん。あ。く。女。の。こ。ろ。あ。り。た。り。て。ゆ。た。か。り。い
 れ。か。な。か。お。や。こ。い。あ。り。り。か。り。と。意。清。と。あ。り。こ。い
 わ。り。こ。い。笑。意。見。意。悲。意。の。意。意。意。別。意。年。の
 物。も。ご。と。わ。り。た。り。ぬ。さ。う。く。い。や。ん。又。に。お。う。ら。ん。し。い。ご。う
 か。か。油。の。な。い。が。の。く。や。さ。の。一。夜。書。の。ひ。よ。い。や。ん
 かく。お。も。あ。り。人。ぬ。く。は。い。と。い。ふ。お。う。ら。ん。か。ん。し。い。ご。う
 こ。い。や。ん。あ。く。女。の。こ。ろ。あ。り。た。り。て。ゆ。た。か。り。い
 れ。か。な。か。お。や。こ。い。あ。り。り。か。り。と。意。清。と。あ。り。こ。い
 わ。り。こ。い。笑。意。見。意。悲。意。の。意。意。意。別。意。年。の
 物。も。ご。と。わ。り。た。り。ぬ。さ。う。く。い。や。ん。又。に。お。う。ら。ん。し。い。ご。う
 か。か。油。の。な。い。が。の。く。や。さ。の。一。夜。書。の。ひ。よ。い。や。ん
 かく。お。も。あ。り。人。ぬ。く。は。い。と。い。ふ。お。う。ら。ん。か。ん。し。い。ご。う
 こ。い。や。ん。あ。く。女。の。こ。ろ。あ。り。た。り。て。ゆ。た。か。り。い
 れ。か。な。か。お。や。こ。い。あ。り。り。か。り。と。意。清。と。あ。り。こ。い
 わ。り。こ。い。笑。意。見。意。悲。意。の。意。意。意。別。意。年。の
 物。も。ご。と。わ。り。た。り。ぬ。さ。う。く。い。や。ん。又。に。お。う。ら。ん。し。い。ご。う
 か。か。油。の。な。い。が。の。く。や。さ。の。一。夜。書。の。ひ。よ。い。や。ん
 かく。お。も。あ。り。人。ぬ。く。は。い。と。い。ふ。お。う。ら。ん。か。ん。し。い。ご。う



てのありおぼえより多くとどめられぬわいのあり
 慈母と申すは代りおのきとてりいそふ心ま
 きこむわの女よりとてりいそふ心ま
 せの中ははかたやせかたまさればがわ
 こわの女の昔患とぬきりぬむとてりいそふ心ま
 いつらりしむ難かといふてはけりいそふ心ま
 なりてやけきい王とてりいそふ心ま
 まなれども重罪とてりいそふ心ま
 まこいばお泉普願とてりいそふ心ま
 くとしていふ東西の女堂猫兎と浄とてりいそふ心ま
 さられども二人の女はまりかげくも不便なれ

并責ゆるんやかほせくといふは二人の女房かろめ
 かりばよりいびいそふ心ま三津川へ走り獄卒たよ
 むゆりぬきぬきいそふ心ま女房と二人の中
 よとれたわまるといそふ心まあてぬあてぬあてぬ
 教てぬぬいおそふ心まこととてりいそふ心ま二人は女
 ういりやうとてりいそふ心まあてぬあてぬあてぬ

才九 業の祥

又官王と申すは三白のありいよ又敷とてりいそふ心ま
 よ祥量舎ありたれいよ勅録舎ありいそふ心ま
 上は錦幢ひるいよ是れいよ素乃三の罪の極
 行はぬいそふ心まいそふ心ま不思義ありてん



日ら此風吹よハ中しくもやえれむ〜〜〜播

あやめくれ天下ありて

何の事日ちらぶ計は

とひひくれと見えとやしてこそ色くめでし推し来者

ク部は此のちりあつとり太王の御勅作のこゝろの

糸も佛作の具程なれば世果不双の因室なり

淨顯梨乃のこゝ業乃のちりは二行ハ教多ク中れ

此のちりあつとり大王の御勅作のこゝろの

ホごられたれ穢卒迄あつとりたともつとぬに室

とあつとり口と〜〜〜下しれ上もれあつとり

あつとり。あつとり。あつとり。あつとり。あつとり。

あつとり。あつとり。あつとり。あつとり。あつとり。

あつとり。あつとり。あつとり。あつとり。あつとり。

人あふそかふ何歎の縁目成

これと見えと〜〜〜計は

とひひくれと見えとやして是ハ汝が御り以重室ハ御

程とあつとり。あつとり。あつとり。あつとり。あつとり。

そはハかれぞとて程ありあつとり。あつとり。あつとり。

ゆゑのよかめのもよりのとて。程目大方思つと

重龍のたごひよとまじり保すのこゝろなり

わつてそふとひひくれ。あつとり。あつとり。あつとり。

あつとり。あつとり。あつとり。あつとり。あつとり。



掌して二の子もとははしく情願よくむらむら
 そのうち一母の親をくじりてかたね。それ
 より二人の子を愛みて母も色をねまて歎けり。元
 づから。されど。國司やされざる。我一子ともされ
 ぬ。なんらら成美実の子と号せざり。こころ。それら
 いや。移ん。あ。こころ。は。國司の女を。あ。く。て。い。や。物
 とぬ。故。を。辱。ら。れ。女。房。と。迎。へ。り。び。女。房。二。人。の。ま。う。子
 と。か。ら。じ。り。限。な。り。或。時。人。と。あ。の。と。兼。持。と。あ。え
 び。二。人。の。子。と。う。な。り。な。り。う。り。う。り。び。子。を。海。よ。ま。ら。つ
 り。ん。と。か。ら。じ。り。室。乃。津。は。ま。て。し。ゆ。と。あ。い。の。高。人。今
 乃。合。り。高。人。は。子。を。と。り。買。取。ら。り。う。り。う。り。

つ。ま。り。ひ。く。る。あ。り。の。あ。り。の。海。よ。沈。め。さ。う。に。賣。れ
 じ。う。り。う。り。や。し。の。う。り。賣。か。ら。れ。妹。は。有。監。と。い。は。よ
 れ。由。へ。い。く。さ。い。有。監。か。り。と。あ。ろ。く。端。正。か
 ら。故。の。ら。に。と。伊。左。の。國。司。乃。女。房。と。ぬ。と。は。ん。乃
 有。師。と。い。京。乃。高。人。が。買。て。は。ま。て。の。り。の。後。さ。り
 惠。心。信。都。塔。依。書。乃。道。守。師。と。う。き。れ。丹。時。の。以
 下。向。あり。こ。り。記。を。お。よ。の。密。め。され。その。名。は。高。人。の
 名。に。留。り。有。師。と。その。中。は。う。り。う。り。載。り。る
 人。船。り。て。乃。ら。法。花。經。と。あ。ろ。う。か。は。漢。備。と。は。は
 る。父母。二。親。乃。と。め。と。廻。向。志。さ。り。僧。都。の。の。り
 と。こ。こ。し。ゆ。と。され。と。あ。れ。と。あ。れ。人。ぞ。と。君。と。い。ふ。と。高

人買中へ心子なりとて。僧部かがりめいり
童の法然のりものかり。我才子に多しといふ人
の商人のいふか家よのあゝわははつすべし
といふ。さうばとて。つとまふふよへのりりいひ
らんよとて。并かた智者とて。なほは、
の先徳。覺起とて。かかりしもの。ふか
せり。又造立まゝなり。その時乃依貴の導師
覺起とて。傳せり。即覺起。因情堂よとて。法
わらふ。總元の中より。観涌一週奉り。覺起
とて。り一智とて。是とて。又有良母
そ。其の沈。菩提のり。又見乃有師。今生に

い鬼。乃のあ。あ死ぬ。く。こに。同仏果よ。玉
と。まて。年。号。日。付。乃。下。は。施。主。有。監。教。白。と。書
り。覺起のり。は。不。富。よ。か。げ。知。り。同。宿。と。以
是。と。た。ど。の。あ。い。伊。予。國。乃。玉。司。今。在。在。系。と
これ。わ。り。その。女。中。あり。と。り。き。り。その。時。覺起。對。面
わ。り。く。さ。い。よ。名。の。り。わ。い。乃。の。り。た。り。こ。に
か。父。母。よ。わ。り。こ。を。れ。も。し。事。乃。と。て。こ。の。あ。い
ぶ。ふ。さ。ぎ。と。あ。ふ。そ。れ。し。り。あ。は。眼。を。し。て。覺起。事
よ。の。り。こ。は。ゆ。り。妹。々。玉。乃。藥。よ。の。り。い。よ。れ。く。あ。ん
あ。り。た。ま。あ。今。生。め。く。兄。弟。と。て。藥。車。ふ。乃。は
存。せ。九。お。蓮。と。て。店。と。て。一。父母。仏。果。よ。と。て。人

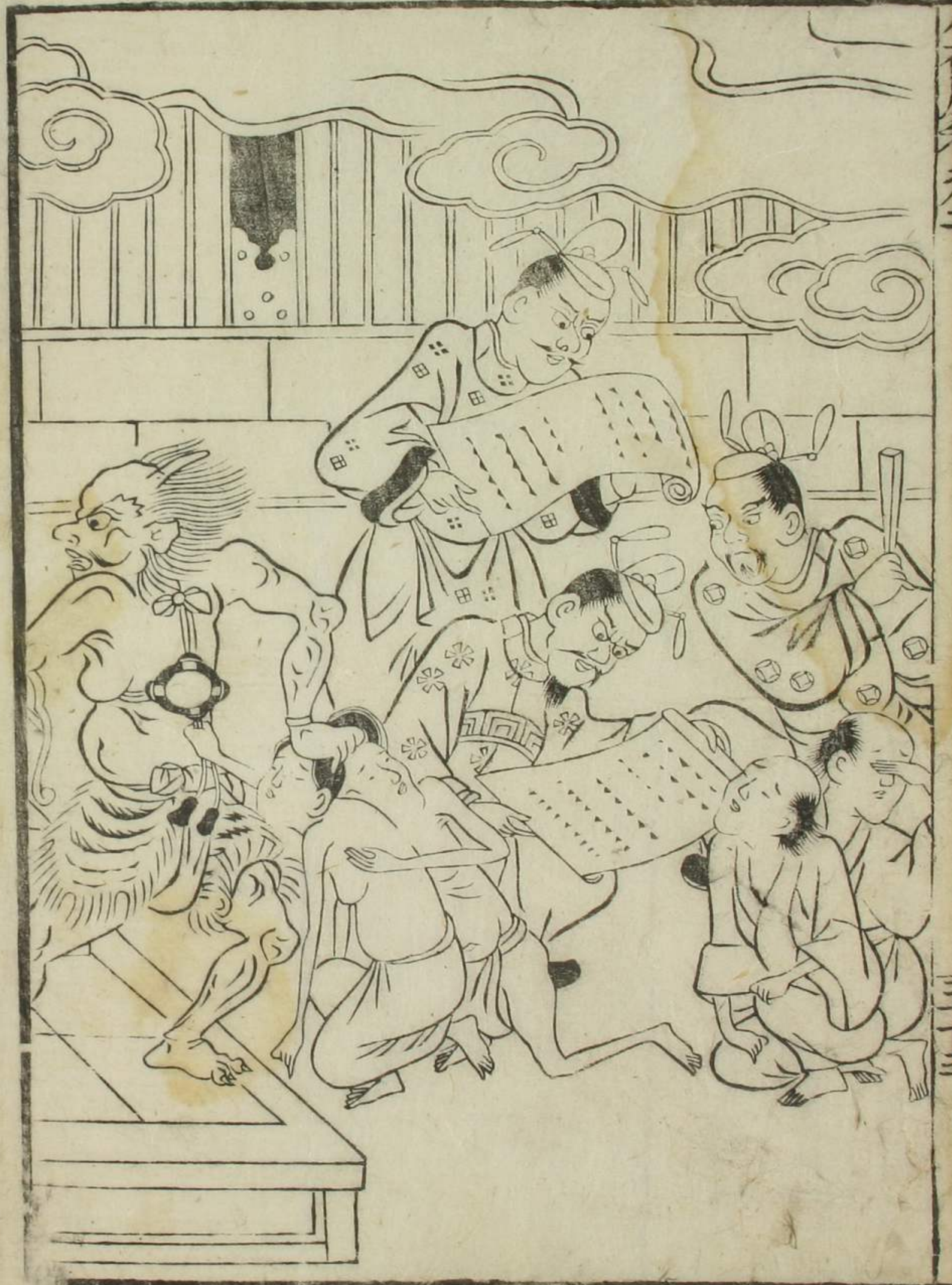
い夜...



ゆめくさるいあぶらうびこりふ物成と水。世か
 むらゝあれい。鬼ごまきこまきこもくもた世にる
 今れたれしときこひてさ面わく事う移んが
 ころい申わらわのおうこと秤量舎よとん
 折こころかさきこころんと鬼去此走まきり
 病い才とたどけうとらるやれうとやとんぞの
 ころ意い法師とついで世訪ま秤量舎
 辰ころきらうが懺悔とれと罷かうとくなが
 ころころかば。是かどあに罷科のあは
 ころめつふぐんあくる根もぬあぬ物成やえ
 ころだま心しころい。ころ物わらるん獄卒

ころころいあぶらうびこりふ物成と水。世か
 むらゝあれい。鬼ごまきこまきこもくもた世にる
 今れたれしときこひてさ面わく事う移んが
 ころい申わらわのおうこと秤量舎よとん
 折こころかさきこころんと鬼去此走まきり
 病い才とたどけうとらるやれうとやとんぞの
 ころ意い法師とついで世訪ま秤量舎
 辰ころきらうが懺悔とれと罷かうとくなが
 ころころかば。是かどあに罷科のあは
 ころめつふぐんあくる根もぬあぬ物成やえ
 ころだま心しころい。ころ物わらるん獄卒

ころころいあぶらうびこりふ物成と水。世か
 むらゝあれい。鬼ごまきこまきこもくもた世にる
 今れたれしときこひてさ面わく事う移んが
 ころい申わらわのおうこと秤量舎よとん
 折こころかさきこころんと鬼去此走まきり
 病い才とたどけうとらるやれうとやとんぞの
 ころ意い法師とついで世訪ま秤量舎
 辰ころきらうが懺悔とれと罷かうとくなが
 ころころかば。是かどあに罷科のあは
 ころめつふぐんあくる根もぬあぬ物成やえ
 ころだま心しころい。ころ物わらるん獄卒



徳よりのが豊なる知れぬくもるひよりあつて
かみくそまのついでに今も命の浄世繋れに徳の
邦文徳にふりよるものよめいふに
まの徳とぬいさうかづかむらひる本に座の
さびれくしに比よとよれくもや四たる徳たが
てぬわぐもせらるもくもやに座いんそめ
とせられらるあづきらもそのよかたたがり
ひし。くらりきこふまにむかひとそらに
けまのたまましきつてあんなら奇物りの物。
あやむあく天下一わらわれし道徳かち音よ
わいまふらり。汝が類いっかどじうひらるんよ。向

あつちの罪科とくぬく金次とくくもりのこと
むらりの方だよ。さうくくもるわと濟感あこ
くべ。その勅定よのいを界りるをれ。よもどと多
けきたなんら奇物よんをわらりまよと女くぬぐと
らりあひのいさかみのなれきとからんらよか
せけちの徳定ことこの勅定よ。小泉洋でるわれに
入すれ物いりもあつあつものつちもいものあつた
い。東かたに事なり。それく福んを入存代
景気田いりぬやよ。仕立や。今こもふに
し。所前と思ははる。小泉心のうらよ。ま
ありや。かひあよ。あんれく。よ。この勅定あり



ねまのいづれと云ふのれぬるまじきんくはるか
 とのりせつとてふ小泉よそがく空てはまじき
 ちいしきとてさうだつあつに後のらごめとけり
 右日燈さくびうつとまはりてとちり物志にわく
 ちせなまはるるよ治定にその事小後磨に合
 具用をけつまつきとて旅城頓と云二鬼にま
 けよかほせつちの洞かまゆと物とふら石
 橋水浪さくわらごめ。堅炭たしとらどやてを
 布切と二天つやふうつのをれを何あくるもや
 とたのしとて。國中に船ありけし。右の道と流
 方らりてしとびとあつた。大道は馬車

取せれ健選る物さうし人こそとて。二日わい
 おふた具換て山のふと。後まけうはままひな
 いんあつと大まへ奏剛あつとる。津願乗のい
 少くもりやあまはあつと。要安乃亡人か
 小泉しやそのよにわぐとせかふはなつと。のひに
 ちよいゆき。ちかづけ押ととや。とてよ大
 重釈迦さまとらにわ傳のいさなれ。佛さ乃
 光うらとびと。一旦佛勅とらとせし。ぬいさう
 ちるるぐもやに座ちな。ちのちりどあられれど。
 大まがふとやかほし。ちきんげまのやぬ。後よ
 論云行のどとさうと。まよらとる。とて。

畫工の毛延壽（毛延壽）見たりとせざるゆへに侍てふかして
くさ書て胡國（胡國）に汗るるわく。右いさの中才（中才）一ひ人
かねて胡女（胡女）の姿のなつてよまきとらこしく見あぐ
かしかりととりとまらぬ終て白樂天（白樂天）が初よ今々
似畫圖中（似畫圖中）と作るうよまきとらこしく見あぐ
のうらうらうとみらるるわくとこしく見あぐ
びよ後のうげははらわらわらとこしく見あぐ
ざらゆいやり

小夜鼠卷第二終

